

## 奄美大島方言の文例

野原, 三義

---

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

5

(開始ページ / Start Page)

102

(終了ページ / End Page)

115

(発行年 / Year)

1979-10-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012749>

## 奄美大島方言の文例

野原三義

## (1) 笠利町節田方言の文例

以下の調査は榊善三氏(1912年6月8日生)より、1977年12月28日と1978年12月22日に行ったものと、島山よみ氏(1911年10月21日生)より1978年12月23日、26日に行ったものである。

kju:ja wagga ?itʃibag saki ɸuita

今日は 私が 一番 先 起きた

taro:ga ?ugafi ?ifuta

太郎が そう 言っていた

?a ja:ja waŋ ?ujamutu

あの 家は 私の 本家

wakja: <私達>

kuri:ja ta:muŋjo これは 誰の物か

wuduri ni:ga ?ikjo: 踊り見に 行こう

?arini:fi hatarakimuŋja uraŋ

彼のように 働くのは いない

?ari:ja si:ʃumba wannija jusi:raŋ

あれは知っているが 私に 教えない

ɸikku turjun tʃunu ta:mi

早く 取る 人の 物

kĩnu judanaŋ hananu sakju:n

木の 枝に 花が 咲く<sup>ri</sup>

kʃjanu si:ma <喜界の 島>

喜界のワヌまで7里。マールン船で行く。

?amananti njarija nu:kai

むこうに 見えるのは 何か

?ase <母>。?okkaŋ <母。新しい>。

?amma <祖母>

?asega ?igikuttʃi ?ifuta

母さんが 行って来いと 言っていた

?jaga ?ifutaŋja sirotʃi ?omoju:kʃa

君が 言うのは うそと 思うよ<sup>ʃo</sup>

mi:ʃarinu ?utʃi tarukatʃi ?omoju:ndʃaga

三人の うち 誰かと 思うが

mi:ʃarinu ?utʃi tʃu:ritʃi ?omoju:kka

三人の うち 一人と 思うよ

?an tʃunu ?ujaja bjo:ki ʃagi:ka

あの 人の 親は 病氣らしい

ɸuwambi <病氣。古い言葉>

harinu min nu:finni

針の 孔 通してくれ

wa: ?okkagga kam moriuri

私の 母さんが ここいらっしやる

ʃigutu ha:ʒimiro 仕事 はじめろ

kʃiŋ <着物>。nui <縫う>

kʃiŋ noamba 着物 縫おうか

?jaja da:nu kʃwa:ga お前は どの子か

dzeŋ u:ʒinu ja:nu kʃwado:

ゼン 叔父の 家の 子だ<sup>dʃaga</sup> (普通)

dzeŋ u:ʒinu ja:nu kʃwadarijotto

子ですよ(敬語)

so:rjo <長男。昔はそういった>。

so:rjo:maga <長男の子。孫。古い言葉>

nan tʃo:nagga ?iɸutsinu tukinu

貴方の長男は いくつの 時の

k<sup>2</sup>wa:ka(:)

子か

nan tfo:nagja ʔiɸutsĩnu tukinu

k<sup>2</sup>wadariogjo

子ですか

dʒu:rokunu tukinu k<sup>2</sup>wa:do:

16歳の時の子

dʒu:rokunu tukinu k<sup>2</sup>wadarijotto

子ですよ

jamjuɸ &lt;痛い&gt;。jadi &lt;痛い&gt;

ʔaka: , watanu jadi ʔo: ʒirag

アカー、腹が痛くてたまらない

ʔumananti maʒimunnu utaga kjaʒimu

そこにハブがいたがどうも

sĩrantina

しなかった

maʒimuɸ &lt;ハブ&gt;。garasiɸu &lt;青大将&gt;。

ʔunnjagja &lt;黄色い蛇&gt;。mattagu &lt;赤マ

タ&gt;。ɕaggwa &lt;ヒャン&gt;。kofokamja &lt;木

登りとかげ&gt;。ʔafaja &lt;蟬&gt;。ʒa &lt;熊蟬&gt;

kokko ko: u: &lt;鶏鳴&gt;。gu: gu: &lt;豚の鳴

き声&gt;。mu: &lt;牛の鳴き声&gt;。ɕiɕɕi: ɸ &lt;馬

の鳴き声&gt;。bja: &lt;山羊の鳴き声&gt;。bja:

bja &lt;幼児語の山羊の鳴き声&gt;。kakjuɸ &lt;

書く&gt;。narimuɸ &lt;実&gt;

wagga kako 私が書こう

kug ʒinamuɸja ta: kanu kowarag

この品物は高くても買えない

ki: nu narimuɸ 木の实

kin nari 木の实

ʔamĩnu ɸurjuri 雨が降る

ʔanija tʒʔanni nifi ne: saɸja ʔokk<sup>2</sup>a

兄さんは父さんに似て妹さんは母さ

nni nifuri

んに似ている

unari &lt;姉妹&gt;。ʔututu unari &lt;妹&gt;

suza unari <姉さん>。k<sup>2</sup>uriro:ka <く

れようか&gt;

ʔututu unarini kagaɸ k<sup>2</sup>uriɸ

妹に鏡くれる

janu tʒu ʔaɸkari ja: nanti uri

家の人皆家にいる

ʔagaɸ ʔikjuttu ʔja: ritto

あそこへ行くと叱られるぞ

wakjaga wa: kaɸkuruja murahazureni

私達が若い頃は村はずれに

ɸuihaɸ ki nu tattʒutandʒaga

大きな木が立っていた

ʔujanu mennanti uro 親の所に居

ろう

tarunni k<sup>2</sup>uritiɸo 誰にくれたか

tʒʔanna ʒigututʒi ʔidʒa 父は仕事に

行った

kamitʒi katʒi ʔomotetʒi hariɸasi

紙に書いて表にはりだす

hana niga ʔikjo: 花見に行こう

naze ʔigiku 名瀬行く

ʔma: nuro 馬乗ろう

ʔjaja da: tʒi ʔikjunjo 君はどこへ

行くか

kukkaraga ʔamagari tudĩnni

ここからむこうまでとび越えなさい

hakuja ki tu sukurjuɸ

箱は木で作る

kuttu tsukurariɸ kaja これで作ら

れるか

ɸuditu kakjuɸ 筆で書く

ʔokkagga ʔmonnifi si ri jo:

母さんがおっしゃるようにしなさいね

ʔokkagga ʔjunnifi si ri jo:

母さんが言うようにしなさいね  
ʔaminu tinda ɸurjuri  
雨が 天から 降っている  
tiɸkara とはいえない。tidag <太陽>。

kukkara <ここから>。  
tuginu kʲinu: ɸuniraga kagofimatʃi  
妻が 昨日 舟で 鹿児島へ

ʔiza  
行った  
sikammara jurugari hatarakjuɸ  
朝から 晩まで 働く  
sɛ: ja kumiraga sukʲurjuɸ  
酒は 米で 作る  
dʒu: ja hama: raga ʔattʃuta  
じいさんは 浜から 歩いていた  
mitʃiraga ʔattʃutaga 道から 歩いて

いたが  
ka: miraga ko: ti: ku: jo  
油の肉から 買ってこい  
ʔo: gatʃiraga nazittʃi ʔiza  
オーガチから 名瀬へ 行った  
kju: raga kakihazimi  
今日から 書きはじめる  
ʔma nuti ʃitʃa 馬 乗って 来た  
ʔmaraga ʃitʃa 馬から 来た  
ʔnamagari matʃutimu kuɸ  
今まで 待っても 来ない  
sukinu ʔagariɸgari hatarafi ʃitʃa  
月が 上るまで 働いて 来た  
warabinu mifa: ri jamməna ʔasiduri  
子供が 三人 庭で 遊んでいる  
kuɸ jama ja ʔaɸ jamakʲema ta: -  
この 山は あの 山より 高

ka: ri  
い

kuzupkʲema kondoja nuɸukkaari  
去年より 今度は 温い  
kuzupkʲema kondoja ɸigurukaari  
寒い

ʔintu majatu dukka sikjuri  
犬と 猫と どちらが 好きか  
kafikiɸəitu ʔusitu katikujo:  
蒸籠と 臼と 借りて来いよ  
sukitu ɸuʃija juru ʔigiɸ  
月と 星は 夜 出る  
ʔokkantu ma: ʒig ʔikjuɸ  
母さんと 一緒に 行く  
siɸu modorittʃi ʔokkagga mofado  
すぐ 戻ってと 母さんが おっしゃったよ

ʔikjamba narantʃi ʔjutaga  
行かねば ならないと 言っていた  
ʔan tʃunu kakjuntʃi ʔifuta  
あの 人が 書くと 言っていた  
kabinanti sumitu ʒi: ba kakjuɸ  
紙に 墨で 字を 書く  
namaeba kjuraka kakjuɸ  
名前を きれいに 書く  
kuri muti これ 持て

ʔafadu kjuɸ 明日ぞ 来る  
kafag kʲiɸfika niɸ  
こんな 着物しか ない  
wagga hog jumjuɸjo: 私が 本 読むよ  
waggadu jumjuɸ 私がぞ 読む  
kattʃan tʃunni kuriramba  
勝った 人に あげるぞ  
kattʃan tʃunidu kuriramba  
人にぞ

kafamutʃi <おはぎ>。dagumutʃi <団  
子>

sikimutʃi (du) sikʲuru 餅(ぞ) 作る

mutʃi si:kuramba 餅 作るぞ  
wagga dʒi: kakjukka 私が 字 書きま  
ますが

kugga jittʃa これが 良い  
ʔututunu ʔuran dukija muduti ku:  
弟が 居ない ときは 戻って 来い

jo:  
よ

kuri wasiri:ri:ba hikjando  
これ 忘れたら 許さんぞ  
ɸufuja ʔitsi kammori  
じいさんはいつ いらっしゃるか  
taga firafaggannu wakarando  
誰が 知らしたかしら 分からん  
kugja nu: kaija これは 何かね  
dʒi: sitʃuraɸja wan tʃurikai  
字 知っていないのは 私 一人だけか  
wandaka ma: ʒiɸ kamo: kai  
私も 一緒に 食べようか  
si:ti:roka ʔukoka ʔja kattʃi  
捨てようが 置こうが 君の 勝手  
kurindaka ʔarindaka ʔaɸkari jittʃa  
これも あれも 皆 よい  
tottsiburundaka fiburindaka dokonen-  
かぼちゃも 冬瓜も 大根も  
daka tuti ku: jo:  
取って 来いよ  
matsi:gi:ndaka gadzimarundaka me:-  
松木も ガジマルも 生

tu: ri  
えている  
tsunaminu ʔagati ja: ga: ri nagari:-  
津波が 上がって 家まで 流さ  
ta: ɸɸji  
れたと

tarondaka sittʃunnja 太郎も 来ているか  
warabi na <童名>, 大正生まれくらい  
までは有する。bo <男も女も>, habo <男  
も女も>, ʔaka <女>, ba: <女>, ba-  
kkwa <女>, bokkwa <男>。

ʔakitig kʔuritig ʔunafɸkutubari  
明けても 暮れても 同じことを

ʔjukka  
言うが

kjafi ʔifantiɸ kikjaɸ  
どう 言っても 聞かない  
ʔarindaka kurindaka jittʃa  
あれも これも よい  
kafantimu kakantimu jittʃatto  
書いても 書かなくても よいよ  
mindaka kuɸindaka neɸ  
目も 口も ない  
uttindaka sittʃa: ro: ga 一昨日も 来  
たんだろう

kugja tattɸ muɸkai  
これは 誰達の ものか  
ʔawaja kʔi: kari 粟は 黄色い  
mugi <麦>, kumi <米>, ʔni <稻>  
jamatu <内地>。

ʔiɸja nufinu ʔjuɸkutuba muru kikjuɸ  
犬は 主の 言うことを 皆 聞く  
kʔurukagja sirukaɸkʔema wassaari  
黒は 白より 悪い

以下は、畠山よみ氏の setta (節田) 方言  
hikku ɸuriba ji: munnu jiraritto  
早く 起きたら 良い物 もらえるよ  
ʔja: ja sugu hikku ku: jo  
君は すぐ 早く 来いよ  
naɸja hikku ʔmo: re: jo:

貴方は 早く いらっしゃいよ  
 wakja <私達>, ?jakja <君達>  
 wakjaja nasetji ?iko:di:  
 私達は 名瀬へ 行こうよ  
 kuɣ ja:ja ɸutekaja:  
 この 家は 大きいね  
 k<sup>?</sup>wa:ja da:ɸi ?idgi:ɔ:  
 子供は どこへ 行ったか  
 kurijomma ?anru jitiɸa  
 これよりも あれが よい  
 ?ari <あれ>, ?arimu <あれも>  
 ?aɣ ki: あの 木  
 sanɸijomma kotoru jittiɸa  
 三味線より 琴が よい  
 haginu ɸikisikita 足が つつた  
 haginu ɸa:biriku:da 足が しびれた  
 ?ugaɸaɣkutu siriba ?ja:juri ɸukaja  
 そんなことを したら 君より 外は  
 <するのは>  
 ?ataja ?amakamba maɸuja karaka  
 砂糖は 甘い<sup>が</sup> 塩は からない  
 ?ja:jori ɸukani waɸɸaɣkutu sunɸuja  
 お前より 外に 悪いこと する人は  
 uraɣ  
 いない  
 waɸja ɸujujoma natsiɣa jitiɸa  
 私は 冬より 夏が よい  
 ?ja:ni jarafum muɸja nu:mu neg  
 お前に やる のは 何も ない  
 ?ja:ja muɸja kamandzi: da: ?i:-  
 お前は 物は 食はず どこ いっ  
 dɣijo  
 たか  
 kamaɣ <食べる>, kamandzi: <食べな  
 いで>  
 sinaja hamanandzi ru ?aɣ

砂は 浜 に ぞ ある  
 jammē nandzi ?aɣ 庭 に ある  
 ?an ɸuja kakaɣɣunafi modoti ?idga  
 あの 人は 書かないで 戻って 行った  
 ?an ɸuja kakjuntɸi ?iɸa  
 あの 人は 書くと 言った  
 nasetji ?ikotɸi (ɸi) ?iɸa  
 名瀬へ 行こうと 言った  
 ?ugaɸan doronandzi namaeba kakuna  
 そんな 所に 名前を 書くな  
 ?amandzi <節田部落の後の方の山の名前>  
 ?amandzi ja ta:kari アマンジは 高い  
 ?amandzi ja ta:kaja: アマンジは 高いね  
 ?amandzi ja ta:kari ja アマンジは 高いね  
 ?aɣ jamaja ?ugaɸigari ta:ku neg  
 あの 山は そんなにまで 高く ない  
 kuriɸsoma wakarannu nunu wakarjuri  
 これさえ 分からないのに何が 分かるか  
 unagunu sirarinnu jigganu siraran  
 女が できるのに 男が できない  
 ɸuɣ kutunu ?annja  
 ことが あるか  
 ɸuɸɸuja sē:bē:ri nudi uɣ  
 じいさんは酒ばかり 飲んでいる  
 ɸuɸɸuja sē:bē:ri miɸofuri  
 召し上がっている  
 ?ikutsibē:ri ?angannu judinni  
 いくつ位 あるか 読んでみなさい  
 kuɣ ?juja kja:kibē:ri ɸukkai  
 この 魚は いくら位 するか  
 wan ɸ<sup>?</sup>u:ridake ?ikjuɣ  
 私 一人だけ 行く  
 kjaɸiɸi ?ugaɸigari je:tijo:  
 どうして そんなにまで やせたか  
 ɸuttɸuɣkjamu warabiɣkjamu ?ugutu

大人達も 子供達も 沢山  
 urija  
 いる  
 ?an ?unifi hatarakjun ?uja uraŋ  
 あの 人のように 働く 人は いない  
 ?an ?unifija wandaka hataraki k<sup>?</sup>irap  
 あの 人のように 私でも 働け ない  
 ?atonandzi t<sup>?</sup>u:ridake no:rjuŋja  
 後に 一人だけ 残るか  
 kjaŋifi ?ugaŋi juwakanna  
 どうして そんなに 弱いのか  
 tsikinu ?agariŋgari hateba tagajaŋuŋ  
 月が 上がるまで 畑を 耕す  
 wakjandaka ?ma:nurifa:kaja:  
 私達も 馬 乗りたいなあ  
 majakkwa <小さい猫>, ?inamakkwa  
 <小さい馬>, k<sup>?</sup>wakk<sup>?</sup>wa makkwa <小さい  
 馬>, ?ina?ufi <小さい牛>, k<sup>?</sup>wakk<sup>?</sup>wa  
 ?ufi <小さい牛>, turi <鶏>, k<sup>?</sup>wa-  
 kk<sup>?</sup>wa turi <ひよこ>, ?iŋ <犬>, ?u: ?iŋ  
 <大きい犬>, ?ina ?iŋgwa <小さい犬>  
 nakjandaka koiforanna:  
 貴方達も 買いませんか  
 kumanandzi ?annja:ここに あるか  
 da:nandzi ?ari:どこに あるか  
 surojomota ?ju:na うそ言葉 言うな  
 suro ?ju:na うそ 言うな  
 ?ammaja ja:nandzi ?monnja  
 ばあさんは 家に いらっしゃるか  
 ?ammaja ja:nandzi unnja  
 いるか  
 ?okkaŋ. ka:ŋaŋ <お母さん, 最近>  
 下のように言う人もいた  
 ?aŋe <お母さん>, ?amma <お母さん>,  
 t<sup>?</sup>aŋ <お父さん>, mē: <お父さん>

kundo ?mon ?uja ɸuŋŋukai  
 今度 いらっしゃる人は おじいさんか  
 ?nama ?ikiba mani ?ajukkai  
 今 行けば まに あうか  
 ?aŋ unaguja kjuraka ?aro:ga  
 あの 女は 美しい だろう  
 ?jaja ?ikjunja ?ikanna:  
 君は 行くか 行かんか  
 kurina ?arina これか あれか  
 kuridza <これだ>  
 ?ifo ?idzi taɸu tuti koi  
 海 行って 蛸 取って来い  
 siŋu ?idgituri 瀬が 出ている  
 kun ŋigutuja narituraŋkana dareŋ  
 この仕事は なれないから 疲れる  
 banŋiro <バンジロウ>, t<sup>?</sup>suba <ツワ  
 ブキ>,  
 hontoni nadagari ?utifa  
 本当に 涙まで 落とした  
 ho:raka ?ataja: 嬉しかったなあ  
 ji:kakko:ja: 良い格好だなあ  
 mi:zirakaja: 珍しいなあ  
 ki:kara ?utitto: 木から 落ちるぞう  
 ?akka tumitujja nu:kai  
 彼が 捜しているのは 何か  
 gaŋuŋkana k<sup>?</sup>i:sikiriŋido:  
 だから 気つけなさいよ  
 kaggiriŋido: 考えなさいよ  
 ?jakjaja juɸumma kaggiriŋo:  
 君らは よく 考えなさいよ  
 k<sup>?</sup>wa:tu turaunajo: 子供と 喧嘩する  
 なよ  
 ?jakjaja kjaŋifi ?osokanatiŋo  
 君らは どうして 遅くなったか  
 ŋenŋeija ?namaru ?moŋina

先生は 今ぞ いらっしゃったか  
 ſenſeija ʔnamaru ſittſina  
 来たか  
 ʔajjo: , ʔnanari ʔuteka ʔatina  
 あのね, もっと 大きかったですよ  
 joneja hofibarjuroja:  
 今晩は 星ばれるだろう  
 kjuŋjara kugjara wakarag  
 来るやら 来んやら 分からん  
 kjunna kunna wakarag  
 来るか 来んか 分からん  
 kuridakija musuku  
 これだけは 持って来い  
 ʔajja kaſigari muſikaka gja:  
 あれは こんなにまで むつかしい  
 ſima jomata <シマの言葉>  
 ſetta jomotaja kaſigari muſikaka  
 節田 言葉は こんなにまで むつか  
 gja:  
 しい  
 kumidakija musukujo:  
 米だけは 持って来いよ  
 ʔakka kuba wakarjag  
 あれが 来れば 分かる  
 ʔariba wannindaka kʔuriri  
 あったら 私も 呉れれ  
 ʔamiŋu ʔutantimu kadziŋu ʔuſanti  
 雨が 降っても 風が 吹いても  
 mu wagja kjaſſantimu ʔikjuŋ  
 私は 必ず 行く  
 junu kʔurimmēja higuruka ʔagkana  
 夜の 暮れる前は 寒い から  
 sututtſija ʔidzinnajo:  
 外へは 出るなよ  
 waga kakjuŋkana ʔja:ja kakantimu

私が 書くから 君は 書かなくても  
 jittſja  
 よい  
 ʔaſigja <下駄>, ſibari <小便>,  
 koroja <頃は>, ʔugamiſo: rag <こんに  
 ちは>, jo:ne kja: ʔugamiſo: rag <今晚  
 は>, ʔarijo:ta <ありがとう>, ʔariga-  
 tesama ʔarijo:ta <ありがとう>  
 ʔiſotſi ʔikigaſina hatetſi kojoſi  
 海へ 行きながら 畑へ 肥料  
 muſi ʔiko:  
 持って 行く  
 ʔugaſi ſirantimu ʔugaſi ſantimu ʔja  
 そう しても そう しなくても 君  
 katti  
 の勝手  
 muſi ʔiſantimu kikaŋ  
 何と 言っても 聞かん  
 ʔja: joma wanru ta:ka: 君より 私  
 が 高い  
 banſirogijo: ma kunuguki: ru ta:ka  
 バンジロー木より 九年母木ぞ 高い  
 kjuja ʔikaggunuſi ʔaſa ʔiko:  
 今日は 行かんで 明日 行こう  
 ſe:ja numaggunuſi modoti ku:jo:  
 酒は 飲まんで 戻って 来いよ  
 nakaggunuſi ʔakkī 泣かないで 歩け  
 kum muſja ta:kanu kowaraŋ  
 この 品物は 高くて 買えない  
 hikku ʔuri 早く 起きねさい  
 natsija hiruja nagakamba juruja  
 夏は 日は 長いけれど 夜は  
 ʔikkjaka  
 短い  
 kakiba kakariŋ 書けば 書ける

ta:kannariba ko:na 高いなら 買うな  
 kaj ku: ここへ 来い  
 kuma <ここ>, ?ama <むこう>  
 kakjunnariba kaki 書くなら 書け  
 wannija siraraj 私には できない  
 wan nariba furi 私ならば する  
 midzidemu numifaka 水でも 飲みたい  
 tarudemu jittjakana ku  
 誰でも よいから 来い  
 wandemu kuttji ?moſa  
 私を 来いと おっしゃった  
 kadziinu fukiba hananu ſirig  
 風が 吹けば 花が 散る  
 ?annja nennja あるか ないか  
 ?agganu negganu wakaraj  
 あるか ないか 分からない  
 ?abitantimu mukaimu siraj  
 呼んでも ふりむきも しない  
 mattfutamba kuntaj  
 待っていたが 来なかった  
 ?atoko:kë: ſantimu turikëſija de-  
 後悔 しても 取り返しは つか  
 kerando  
 ないよ  
 ?ugaſigarija ?araj それ程までは あらぬ  
 ni:gaſina ?iko 見ながら 行こう  
 ?na: ja:ſi modoro もう 家へ 戻ろう  
 ?na: ?ittukig ſiraga modoro  
 もう 少し してから 戻ろう  
 kurija taſkaja これは 誰の物かね  
 ?a:jakkëtanſa ああ 大変だ  
 bja: <山羊の鳴声>, mu: <牛の鳴声>,  
 hi: hi: ſ <馬の鳴声>, waſwaſ <犬の  
 鳴声>, ſuttſu <ねずみの鳴声>, kuku  
 k'u: ?u: <鶏鳴>, kokkokko: <あひる

の鳴声>

guſira <鯨>, garasi <鳥>, ſiba  
 miſkwa <目白>, junduri <すずめ>,  
 jundurikkwa <すずめの子>, kwakk<sup>?</sup>wa <  
 小さい子供>

ko: hikwa デモ mifori <コーヒーグワ  
 ーデモ召し上がれ>とおっしゃった

喜界・徳・永良部島の方言は、いくらか分か  
 る。沖縄の方言もいくらかわかるが、おばあさ  
 ん達の話すのは、よく分からないという。

節田では正月に ?adzaj <アザミ>を食べる。  
 アザミの刺や葉を除去し、茎のみをゆがいて水  
 に2日くらいつけアクぬきをし豚骨と一緒に炊  
 く。炊くほどにおいしくなる。ツワ(ツワブキ)  
 は苦くなるからよくない。大根がいくらあつて  
 も ?ufukuに行つて ?adzaj を取つて来る。周  
 辺に無ければ、わざわざ喜界まで取りに行く  
 という。節田では、庭に正月用のアザミが植えら  
 れている。

節田マンカイという正月に行うアソビがある。  
 maſkai は踊ること。maſkau <踊る>。男女  
 二手に別かれて坐るが、相愛の者は向かい合つ  
 て坐る。坐つたまま体を前後左右に動かしたり、  
 手でいろいろな所作をしながら、歌詞を唱える。  
 昔は夜通しでもアソングとのこと。

## (2) 徳之島町井野川方言の文例

以下の調査は1978年12月24日25日に町田政善(1902年1月14日)氏, 利田義忠(1912年6月1日生)氏, 町田まし子(1918年3月13日生)氏より行ったものである。

kuju: ja wagga ?itjibag ɸuja ?ui-  
今日は 私が 一番 早く 起  
tag  
きた  
?uriga ?mo: runisika wamma ?ike-  
貴方が いらっしゃるなら 私も 行き  
rundo  
ます  
?ja <お前>  
taro: ga ?ugasī ?itjutag  
太郎が そう 言っていた  
?ag jaja wakk<sup>?</sup>jaga hopke  
あの家は 私達の 本家  
?urija ta: mugga これは 誰の物か  
uduri niga ?ikjug 踊り 見に 行く  
?arinisi hatarakjumugja urag  
彼のように 働く者は いない  
?arinija wakarisiga wannija na-  
彼は 分るが 私には 教え  
rotji kurag  
てくれぬ  
hē: ku turumunnu munu 早く 取る人  
の物  
kinu jedana hanaga satfug  
木の 枝に 花が 咲く  
?ukezima <請島>, jorozima <与路島>  
?erabu <永良部>, ?o: fima <大島>,  
tukunufima <徳之島>  
?erabunu fima <永良部の島>  
?anna nijarumugja nuga

むこうに 見える は 何か

?a: maga ?idzikuttji ?itjutag  
母さんが 行って来いと 言っていた  
?jagga ?ju: mugja ?arammujidu ?o  
君が 言うのは うそと 思  
moju  
う  
mitjarinu ?utjinu taggaj<sup>?</sup>idu ?omoku  
三人の うちの 誰かと 思う  
?antfunu ?ujaja jamī  
あの人の 親は 病気  
harinu min tu: tʃikure  
針の 孔 通してくれ  
tataminu ɸurija kumina  
畳の へりは 踏むな  
wakja ?a: ma: ga ?mo: tʃa  
私達の 母さんが いらっしゃった  
figutunu hazime 仕事の 始め  
nuimunnu ?atuja ʃo: zinu ?ag  
縫い物の 後は 掃除が ある  
?idgasundo ?idgasandotsi ?itjutag  
出すとか 出さんとか 言っていた  
?ja: ja da: nuga お前は どの(子)か  
wagja matʃidanu k<sup>?</sup>wa 私は 町田の 子  
wagja matʃidanujo: 私は 町田のよ  
?uriga tʃo: nagja ?ikutsinu tukinu  
貴方の 長男は いくつの 時の  
k<sup>?</sup>wa: ga  
子か  
?itja: g, watanu ?itja: g tsidzīkarag  
痛い, 腹が 痛い たまらない  
?nna mazugga utasi ga numma sadate-  
そこに ハブが いたが 何もしなかった  
habu, mazug, madzīmug <以上ハブ>,  
?aunudza <青大将>, mattibu <赤マター>

kwa:taro <寝たら動かぬへび>  
 hadiġa ɸukjuġ 風が 吹く  
 ?an tɸuja kakango kaitaġ  
 あの 人は 書かないで 帰った  
 wagga kakjuġ 私が 書く  
 nidagga ta: 値段が 高い  
 kun ɸinamuġja ta:nu ko:inarag  
 この 品物は 高くて 買えない  
 kġnu tani 木の 実 , kġnu mi 木  
 の実  
 ?amġga ɸuru 雨が 降る  
 miġja ?adzani niŋġi ?akaja ?amani  
 兄さんは父さんに似て 姉さんは 母さんに  
 niŋuġ  
 似ている  
 ?iŋġiban ɸida 長兄, ?iŋġibaġ ?uġnu  
 ?aka 長姉  
 ?uttuni kagami k'uriġ 妹に 鏡くれる  
 ja:nindzuja muru ja:na: uġ  
 家族は 皆 家に いる  
 ?agag ?idzikara ?i:kusaruġ  
 あそこへ 行くと 叱られるぞ  
 wa:kjaga wa:tantukija mura hazi  
 私達が 若い時は 村 はず  
 zina ɸe:karu kiġa me:ti utag  
 れに 大きな 木が 生えて いた  
 ?ujanu tonna uramma 親の 所に 居  
 ろう  
 tanni k'uitagga 誰に くれたか  
 ?a:dzaja ɸiġutukatɸi ?idzi  
 父は 仕事へ 行った  
 kabina katsi me:na haridgasu  
 紙に 書いて 表に 張り出す  
 hana niġa ?iki 花 見に 行く  
 ?uttuni kakasi 弟に 書かせる

?u:ɸimakatɸi ?iki 大島へ 行く  
 ?ma:ni nuri 馬に 乗る  
 ?ja: da:tɸi ?ikiga お前は どこに  
 行くか  
 kumakara ?agan tudi watara  
 ここから むこうへ 飛び 渡れ  
 hakuja ki:ɸi tsukurjuġ 箱は 木で  
 作る  
 kuriɸi tsukurarukaja これで 作られるか  
 ɸudiɸi kaki 筆で 書く  
 ɸudiɸi katsikuri 筆で 書いてくれ  
 ?agga ?mo:rugganiɸi ɸik'ure  
 ばあさんが おっしゃるように しなさい  
 ?amġga tigkara ɸuru 雨が 天から  
 降る  
 tudziġa k'ġnu ɸuniɸi nahakatɸi ta  
 妻が 昨日 舟で 沖繩へ 立  
 ttɸag  
 った  
 ?a:tukikara jo:nentana hatarakjuġ  
 朝から 晩まで 働く  
 sakiġa kumiɸi tsukuru 酒は 米で  
 作る  
 dgi:ja hamanati ?a:ɸutag  
 じいさんは浜から 歩いていた  
 nami <波>, ?u:nami <大波>, ɸi:  
 <瀬>, ɸima guɸi <シマ言葉>  
 miɸikara ?attɸutag 道から 歩いていた  
 ?ambanu mi:kara ko:ti k'u  
 油の 肉から 買って来い  
 ?akitɸukara kamidzikatɸi ?idzag  
 亀徳から 亀津へ 行った  
 <~を~通って>は tu:ti 或いは kara  
 (以上, 町田政善氏より)

kju:kara kaki hadzimiru  
 今日から 書き はじめる  
 ?ma:na nutti tsi 馬に 乗って 来た  
 nu:kara waggaga 何から 来たか  
 nu:na nutti waggaga 何に 乗って 来た  
 か  
 ?ma:kara tsi 馬から 来た  
 ?ju: turi buni 魚取舟。サバニとは言  
 わないとのこと。  
 ?nategana mattsima kup  
 今まで 待っても 来ない  
 ?nategana mattsima kudati  
 来なかった  
 tsikinu ?agaruntana kibati tsi  
 月が 上るまで きばって来た  
 wa: ?ambi:rafuka ?i:ti  
 茶 溢れるまで 入れる  
 waregwa mitfariga jambenatti ?a-  
 子供 三人が 庭で 遊  
 sidug  
 んでいる  
 kup jamaja ?ag jamajuri ta:  
 この 山は あの 山より 高い  
 kudujuri kutusija nukuwa  
 去年より 今年は 温い  
 ?intu njautu digga fikjugga  
 犬と 猫と どちらが 好きか  
 seiro:tu ?ufitu kati ko:  
 蒸籠と 臼と 借りて来い  
 ?ufi <臼>, ?ufi <牛>  
 tsukitu wufituja juru ?idgirug  
 月と 星とは 夜 出る  
 ?amatu madgina ?ikju  
 母さんと 一緒に 行く  
 この場合の ?ikju に はつかない

sugu muduti kutsi ?amaga ?itsi  
 すぐ 戻って 来いと 母さんが 言った  
 ?mo:tsi <おっしゃった>  
 kammo:tsi <来られた>  
 ?ikjama narantsi ?ifuti  
 行かねばならないと言っていた  
 ?an wunu kakjuntji ?ifuti  
 あの 人が 書くと 言っていた  
 kabina sumiji dzi katji  
 紙に 墨で 字 書いた  
 namaeo kjura:gwa katji  
 名前を きれいに 書いた  
 kuri mute これ 持て (ヲは使わない)  
 ?atfa kju 明日 来る  
 ?atfadu kjunnu 明日ぞ 来る  
 上は、ただ来る。下は、今日は来ないで、明  
 日来るのだという違いがある。  
 kaffug k'insika neg  
 (ne:)  
 こんな 着物しか ない  
 waggadu jumjunu 私が 読む  
 katjan wunidu k'u:ru 勝った人にぞ  
 くれる  
 " k'u:runnu "  
 k'u:rum mugja neg くれる 物は な  
 い  
 mutsidu tsikurunnu 餅ぞ 作る  
 waggadu kakjunnu 私がぞ 書く  
 kuiga juta: これが 良い  
 musi ?uttunu urada: tikara sigum  
 もし 弟が 居なかったら すぐ  
 muduti ko  
 戻って 来い  
 wafitagwesi 忘れたら  
 dzija ?itsim ?mo:rugga ?anda  
 じいさんは いつ いらっしゃる かしら

tagga sirat <sup>2</sup> agga ?anda wakaraŋ	○ 事ばかり 言う
誰が 知らせた かしら わからん	○ ?ma: gwa: <小さい馬>, ?usigwa:
kurija nu: gaja: これは 何かしら	○ <小さい牛>, bjo: gwa: <小牛>, ?wa:
dzi: juminaran u <sup>2</sup> u: ja wan ũuri	○ gwa: <小豚>, ?igwa: <小犬>
字 読めない 人は 私 一人	○ ?ikja: ŋ ?iũanti kikjaŋ
békaja	○ どう 言っても 聞かん
ただだろうか	?ari ?a: ti kuri ?a: ti juta: ŋ
wannima madžina kamjuſa	あれも これも よい
私も 一緒に 食べよう	katsima kakadatima juta: ŋ
kurimma ?arimma mu: ru juta:	書いても 書かなくても よい
これも あれも 皆 よい	mi: ma kuũimma ne: ŋ 目も 口も ない
hannagitima hannagi radatima ?ja:	?utti u <sup>2</sup> a: ŋgidzaga 一昨日 来たんだろ
捨てようが 捨てまいが 君の	う
kattida: nu	?igja nusinu ?jugkutu: ju: kikjuŋ
勝手だ	犬は 主の 言う事 よく 聞く
to: tsiburuma siburima de: k <sup>2</sup> unima	k <sup>2</sup> uroja firujuri wa: sa
南瓜も 冬瓜も 大根も	墨は 白より 悪い
t <sup>2</sup> u: ti ko:	ɸujë ?uitikara mum morojaruŋ
取って 来い	早く 起きたら 物 もらえる
matsinu kima gadžimarunu kima	?o: ja ki: ?a 粟は 黄色い
松の 木も ガジマル 木も	?ja: ja suguŋ ɸuja: si: ku: jo:
mi: tuŋ	君は すぐ 早く来いよ
生えている	?ja: ja suguŋ ɸuja: ku: jo:
kudari ſu <下り潮>, miũi ſu <満	早く 来いよ
み潮>	?aŋ jaja ɸuja: du: あの 家は 大き
taro: ma u <sup>2</sup> unse 太郎も 来ているか	いね
tarc: ma ũundo: nu: ga	kwa: ja da: tsi ?idzagga
太郎も 来ているのかどうか	子供は どこへ 行ったか
wareнна <童名>は最近使わないが mitsu	kurijurija ?ariga juta: ŋ
jofi, kamaũo, ſinnja 等があった。	これよりは あれが よい
?a: tuki jo: ne ti: tsigutugwa bē:	sanſirujurija kotoga juta: ŋ
朝 晩 一つごとを 言う	三味線よりは 琴が よい
?a: tukikara jonegatanta: na ti:	?uſſuŋkutu ſu: muŋja ?ja: juri ɸu
朝から 晩まで 同じ	そんな事 するのは お前より 外
tsigutugwa bē	kanaja uraŋ

には いない

sa : ta : ja ?ama : ?asuga ma : fu : ja  
砂糖は 甘い が 塩は

kara :

からい

?ja : juri ?ukana ja wa : sapkutu fu-  
お前より 外には 悪い事 す

ntfu : ja urag

る人は いない

wa : ja ?uju : juri natsiga juta :  
私は 冬より 夏が よい

?akisu uri 取入れの頃

?jani k'u : rum mugja nu : mma ne  
お前に やる 物は 何も ない

?ja : ja mug kamaggo da : tji ?ikiga

お前は 物 食わずに どこへ 行くか  
sinaja hamana ?a 砂は 浜に ある

?an tfu : ja kakaggutu muduti ?i-  
あの 人は 書かないで 戻って 行っ

dzi

た

?an tfu : ja kakjuntji ?itji

あの 人は 書くと 言った

?uffun to : na na : kakina

そんな 所に 名 書くな

?inoudeja ta : 伊野川岳は 高い

?ude <山>, ?udeganafi <山を祀る>

?ag jamaja ?ussaggé : ta : kuja neg

あの 山は そんなにまでは 高くは ない

kassugkutuma wakarammunnu nu : nu

これさえ わからないのに 何が

wakarugga

分かるか

unagu ?atima sa : rummug jigganu

女で さえ 出来るのに 男が

sa : rapkutunu ?amuka

出来ない事が あるか

dariti tfa : tfuma numarag

疲れて 茶さえ 飲めない

tfuma より ?atima の方が強いとのこと

dzi : ja saki : bë nu : dug

じいさんは 酒ばかり 飲んでいる

dzi : ja saki : bë nikjagitug

召しあがっている

?ikutsimbé ?agga ju : dinie

いくつぐらい あるか 読んでみなさい

kuq ?ju : ja ?ikjasa fugga

この 魚は いくら するか

wa : bë ?ikjuq 私だけ 行く

wa : t'uri ?ikjuq 私 一人 行く

nu : ga ?ussaggé : gari ja fitagga  
どうして そんなにまで やせたか

?utudzara wareggwadzara te : gé uri  
大人も 子供も 沢山 いる

?an tfunu sambé hatarakjumugja u-  
あの 人の くらい 働く者は

rag

いない

?an tfunu sikombé wannima şikiraq

あの 人の くらい 私にも できない

?atuna t'uribé no : rija

後に 一人だけ のこるのか

nu : ga ?agasi juwa : gga

どうして あんなに 弱いのか

tsukinu ?agaruntana hate : ?utsu

月が 上がるまで 畑 耕す

(以上, 利田義忠氏より)

wa : kja : ma ?ma : ni nuritfa : hag

私達も 馬に 乗りたいなあ

?ja : kja : mba ko : ti ?ikanuga

貴方達も 買って 行きませんか  
 kumana ?a:ja ここに あるか  
 da:na ?agga どこに あるか  
 ?ara:mu ?ju:na うそ 言うな  
 ?mansa ?ju:na うそ 言うな  
 ?a:gja:ja:na: ?mo:rupkaja:  
 ばあさんは 家に いらっしゃるか  
 ?na: ta:ʃikara mani ?o:ju  
 今 立てばから まに あう  
 ?a:ŋ unagunu kwa:ja ?utusa kju  
 あの 女の 子は とても 美

ra:saja:

しいね

?ja:ja ?ikjundo ?ikando  
 君は 行くか 行かんか  
 ?arikaja kurikaja あれか これか  
 ?arido: kurido: あれだ これだ  
 to: tutikjundo 蝟 取ってくるよ  
 ?asati kju:saja: 明後日 来るよ  
 kun figjutuja nariramunati dari  
 この 仕事は 馴れないから 疲れる

rusaja:

なあ

ho: rahasaja: 嬉しいなあ  
 nada: ?ututʃaŋ 涙 落とした  
 ji: kako ?a:saja:よい 格好であるね  
 ?ariga tume:tumujja dingga:  
 彼が 捜している物は どれか  
 ?ugaʃinati ki: tsikiriʃi ?junse  
 だから 気 つけろと 言うんだよ  
 ?ja:kjaja ju: kaggere  
 君らは よく 考えなさいよ  
 k<sup>ʔ</sup>wa:tu ja:kë fu:na  
 子供と 喧嘩 するな  
 下久志部落では<喧嘩>を toroina という。

?aŋjo: te:ge ʃu ?ataggja:  
 あのね もっと大きかったですよ  
 jusarija hoʃiga ?idziti kjurandzaro:  
 今晚は 星が 出て きれいだろう  
 jo:nija figjorohanu sutuka:ʃi ?i  
 夕方は 寒いから 外へ 出  
 dziri narag  
 られ ない  
 tidaganafi <お日様>  
 ko:kono hana <ハイビスカス>, 井之川  
 では良い所の家にあった。

(以上, 町田まし子氏より)

町田まし子氏は井之川の隣村, 下久志の生まれ, 30才の時に井之川に嫁して来て, 30年になる。両字は方言は似ているとのこと, 参考までに載せておく。